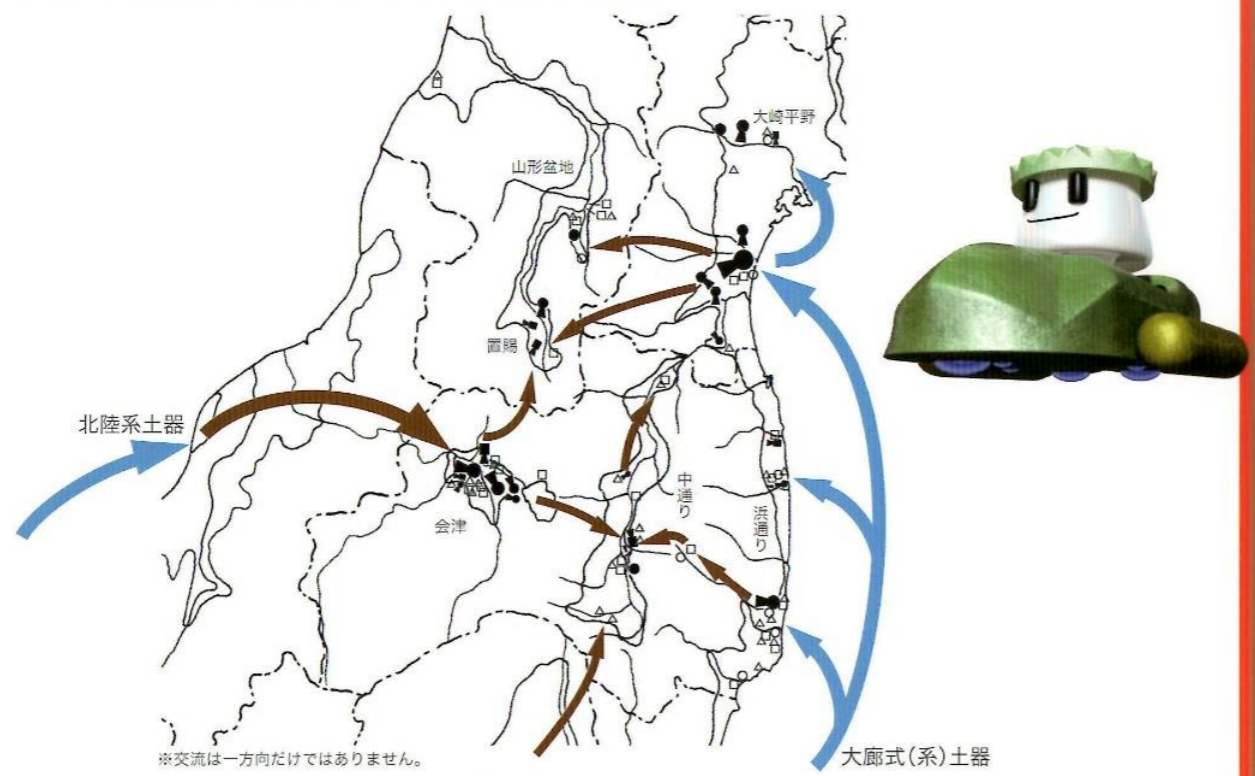


福島県  
中通りの  
前期古墳を  
考える

古墳時代前期の交流ルート

古墳時代前期の中通り中部は、岡子山古墳の埴輪から南北交流がある程度考えられるものの、会津を介して北陸と、阿武隈高地山間部を介して太平洋側と強く結びついていたと考えられます。



※交流は一方だけではありません。 大廊式(系)土器

東北地方南部の前期古墳比較

県名	番号	古墳名	所在地	墳形	墳長(径)	立地	発掘歴	埋葬施設	副葬品	埴輪				比率		
										前方部	後方部	蓋	壺			
山形県	1	大塚天神	村山郡山形町	円	50	河原段丘	○	不詳			2段	×	○	○	0	
	2	稲荷森	南陽市	後円	85	孤立丘	○	不詳			無段	3段	×	×	○	3.4
	3	天神森	東置賜郡川西町	後方	73.5	沖積平地	○	不詳			無段	2段?	×	×	○	0
	4	宝積塚	米沢市	後方	70	沖積高地	×	不詳			無段	2段?	○	×	○	0
宮城県	5	大塚森	加美郡加美町	円	50~52	平地	○	粘土棺2、割竹形木棺2			3段	○	×	○	0	
	6	青塚	大崎市	後円	100	平野	○	不詳			2段?	不詳			0	
	7	長塚塚	遠田郡美里町	後方	66	丘陵	×	不詳							5	
	8	遠見塚	仙台市	後円	110	自然堤防	○	粘土棺2、割竹形木棺2	ガラス小玉・壺	無段	2段	×	×	○	0	
	9	雷神山	赤松市	後円	168	丘陵段丘	○	不詳			2段	3段	○	○	29	
	10	長泉寺山	東田郡村田町	後円	90	丘陵頂	×	不詳			2段	2段	○	○	15	
	11	長泉寺山	赤松市	後円	82	丘陵上	×	不詳							15	
	12	平塚山	赤松郡村田町	後円	85	丘陵頂	×	不詳							0	
	13	稲井	南陽市	後方	75	河原段丘	○	不詳			無段	3段	×	×	○	10
	14	本屋敷1号	双葉郡湯江町	後方	26.5	河原段丘	○	木棺直葬1	管蓋・ガラス小玉・壺	無段	1段	×	×	×	17	
	15	堂の森	双葉郡湯江町	後円	57.1	丘陵頂	×	不詳							20	
	16	玉山古墳	いわき市	後円	112	丘陵頂	○	不詳			3段	○	×	○	60	
	17	傾城塚	安達郡大塚村	後円	42	丘陵頂	×	不詳							30	
	18	大安場古墳	郡山市	後方	83	丘陵頂	○	粘土棺、割竹形木棺1	石剣・武器・農具						15	
	19	玉ヶ作山	須賀川市	後方	37	丘陵中	×	不詳							35	
20	仲ノ平6号	須賀川市	後方	26	丘陵頂	○	不詳							15		
21	仲ノ平3号	須賀川市	後方	17.5	丘陵頂	○	不詳							0		
22	岡子山	須賀川市	円	40	丘陵頂	×	不詳							0		
23	杵ヶ森古墳	会津坂下町	後円	45.6	平地	○	不詳							0		
24	田中舟森山	喜多方市	後方?	90	平地	○	不詳							26		
25	会津大塚山	会津若松市	後円	114	孤立丘陵上	○	割竹形木棺直葬2	鏡・武器・農具など		2段	2段	×		100		
26	玉ヶ作山	会津若松市	後円	84	山頂	×	不詳			2段	3段	○	×	80		
27	傾城山	会津若松市	後円	80	丘陵頂	×	不詳							0		
28	鹿守塚	会津坂下町	後方	55.2	平地	○	不詳			無段	2段			0		
29	鳥ヶ森	会津坂下町	後円	127	平地	○	不詳				3段	○	○	0		

※ 前期前半を含む。数字の単位はm。発掘歴の○は埋蔵施設の有無、○は埋蔵施設など

■協力機関・個人

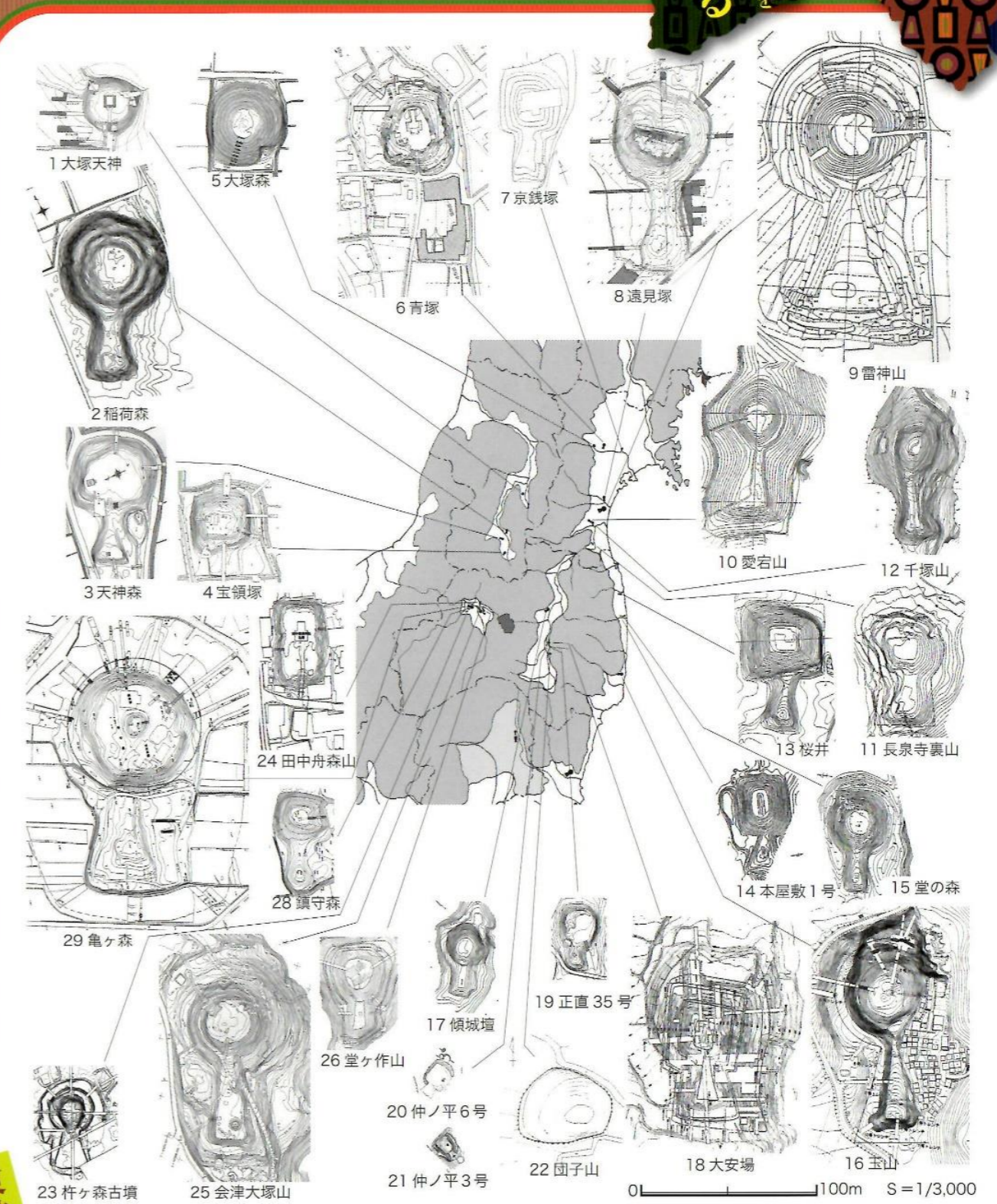
福島県教育委員会・大玉村教育委員会・白河市教育委員会・会津坂下町教育委員会・いわき市教育委員会・田村市教育委員会・須賀川市教育委員会  
福島県文化財センター白河館・須賀川市立博物館・いわき市考古資料館・稲田健一・今平利幸

大安場史跡公園 平成23年度 企画展  
福島県中通りの前期古墳を考える

編集・発行 財団法人郡山市文化・学び振興公社 大安場史跡公園  
TEL 024-965-1088 FAX 024-965-1090  
〒963-1161 福島県郡山市田村町大善寺字大安場160番地  
主催 郡山市・郡山市教育委員会・財団法人郡山市文化・学び振興公社



西暦200年代、日本列島各地に新たな政治勢力が生まれます。この時代は、その代表者のために大きな古墳を築くことが特徴です。私たちの住む福島県でも古墳が造られたことから、新しい社会の仕組みができたことがわかります。今回の企画展では、古墳時代初めごろの埴輪や土器の分布から、中通りの前期古墳に葬られた人物たちの性格を考えます。



※番号は最終頁の古墳番号と一致します。

東北地方では、福島県浜通り～宮城県大崎平野、福島県中通り～宮城県柴田郡、会津盆地、山形県置賜そして山形盆地など、ある程度の平地がある場所に古墳が築かれています。

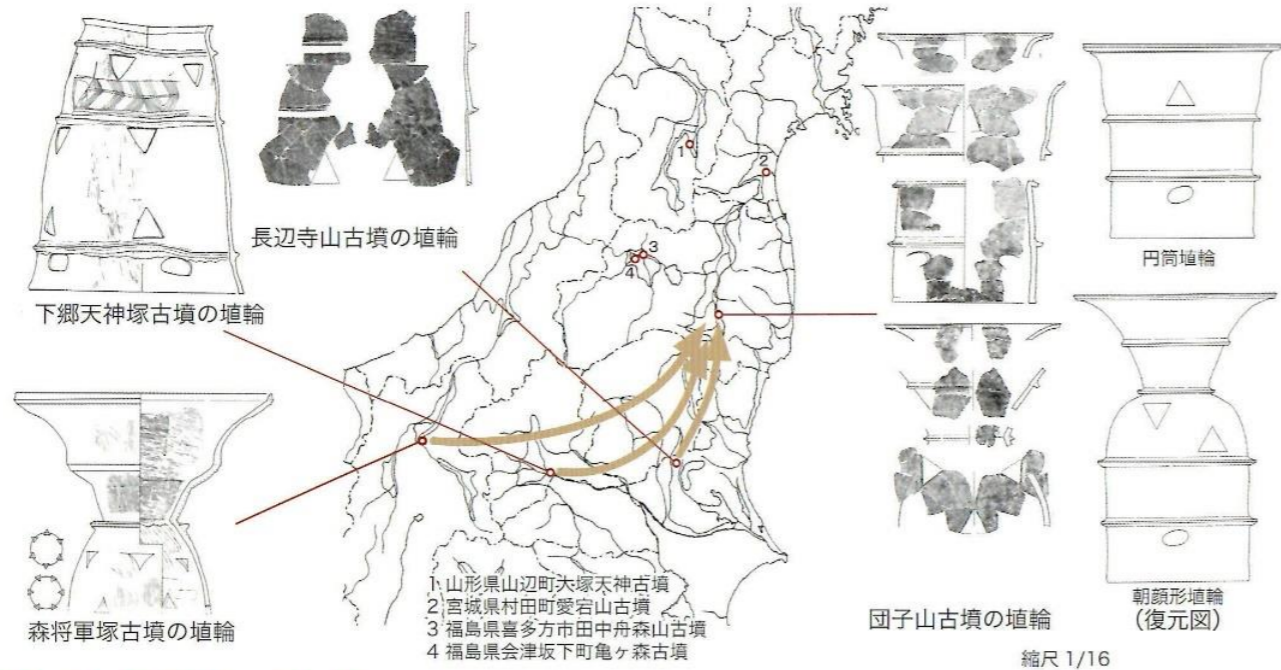
東北地方の  
前期古墳

# 埴輪や土器の分布から分かること

埴輪や土器には地域の特徴が現れます。そのため、同じ形または類似品の分布は、相互に何らかの交流があったことを示すと考えられます。※類似品を(～系)と呼んでいます。

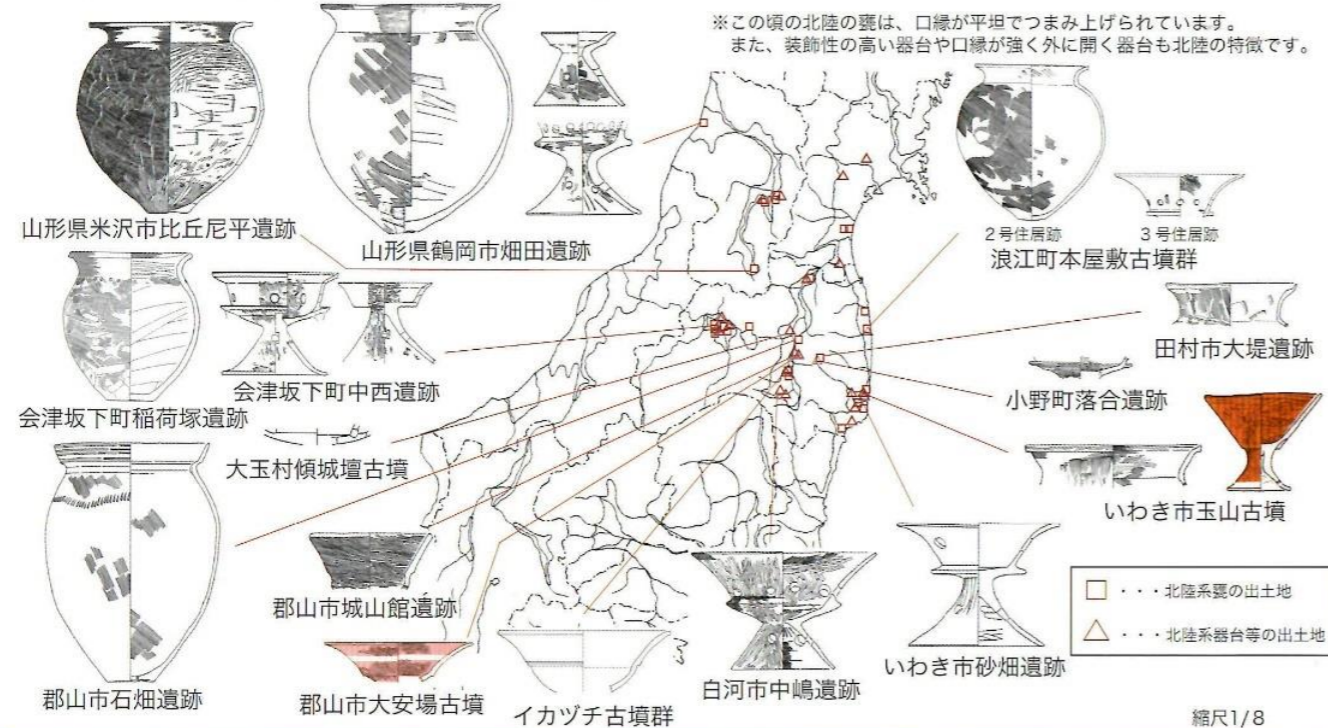
## 東北地方最古級の埴輪

東北地方には埴輪を立てた前期古墳が5基あります。須賀川市の団子山古墳はそのうちのひとつで、円筒埴輪は、最下段に楕円の透かしが、最上段には三角の透かしがあります。また、朝顔形円筒埴輪の肩部(丸い部分)には、三角形の透かしが千鳥状に配されています。この埴輪の特徴は、長野県千曲市の森將軍塚古墳出土埴輪の肩部、群馬県佐波郡玉村町の下郷天神塚古墳出土埴輪の最下段の楕円形透かしに類似し、突帯は、これらの埴輪や茨城県桜川市長辺寺山古墳の円筒埴輪に類似しています。団子山古墳の埴輪は、首長たちが、後の東山道を経てつながっていたことを示す資料です。



## 北陸系土器の分布

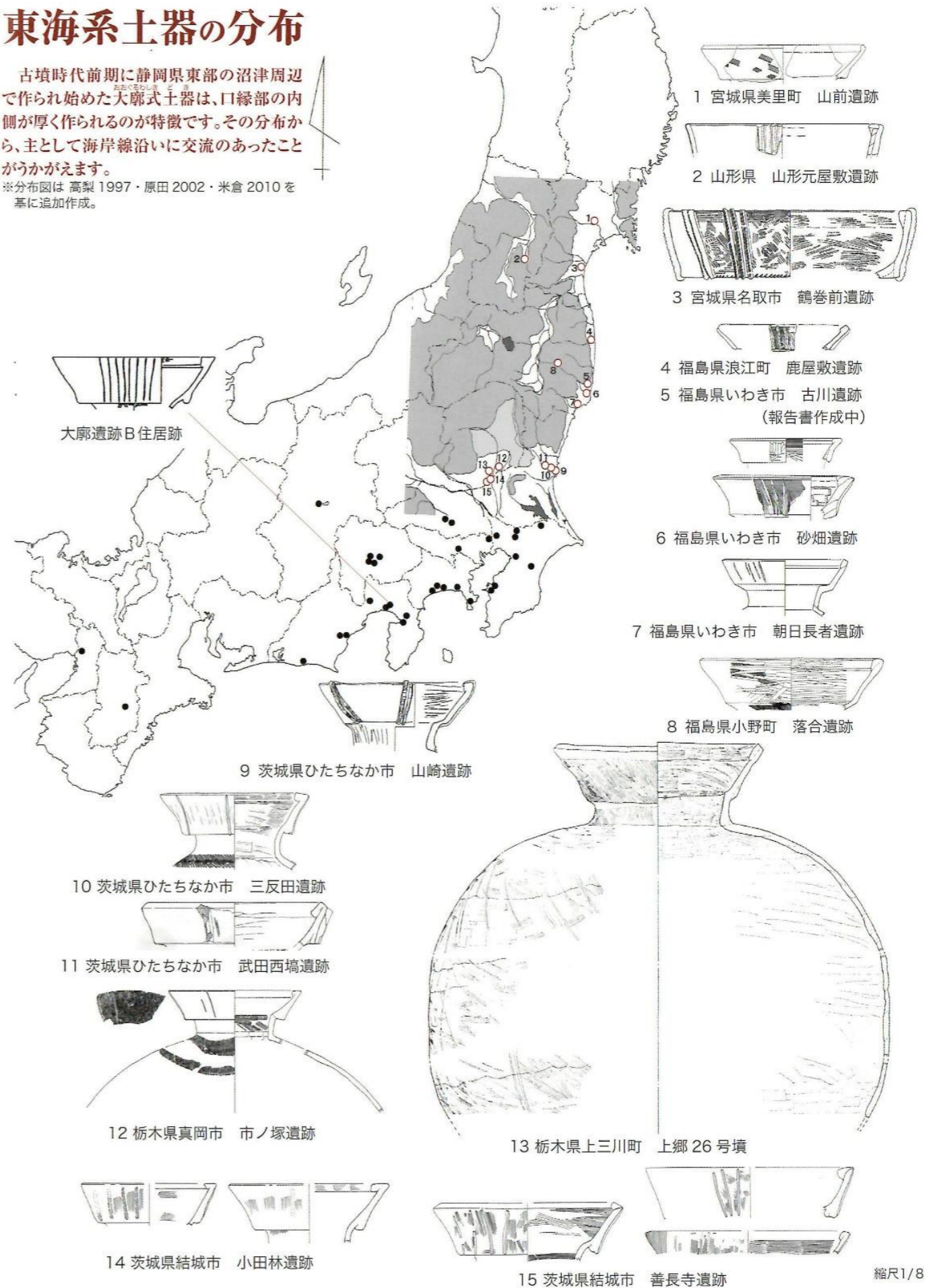
東北地方で古墳が築かれ始めたころ、会津地方では北陸の影響を強く受けた土器が使われていました。会津は、阿賀川を使って盛んに北陸と交流していたことが分かります。また、中通りや浜通りでも、北陸や会津に似た甕や器台が発見されることがあります。地理的な状況から、これらの土器は、会津から中通りを介して伝わったと考えられます。



## 東海系土器の分布

古墳時代前期に静岡県東部の沼津周辺で作られ始めた大廓式土器は、口縁部の内側が厚く作られるのが特徴です。その分布から、主として海岸線沿いに交流のあったことがうかがえます。

※分布図は 高梨 1997・原田 2002・米倉 2010 を基に追加作成。



高梨 俊夫 1997 「大廓式土器の足跡-もう一つの東海系-」『研究連絡誌』第19号 財団法人文化財センター  
原田 幹 2002 「第4章 中部地方の土器」『考古資料大観』2 弥生・古墳時代土器Ⅱ 小学館  
米倉 貴之 2010 「キヤキ遺跡1地点・5地点-はじまりのむら-」『第14回 遺跡発表会資料』印刷部市文化財センター

※7は再実測して掲載 いわき市教育委員会蔵